



**KOBELCO**  
神戸製鋼グループ

# 2017年度 第1四半期決算及び業績見通しについて

2017年7月28日

常務執行役員  
勝川 四志彦





# 報告事項

1. 2017年度第1四半期決算
2. 2017年度業績見通し
3. 財務戦略
4. 参考情報



# 1. 2017年度第1四半期決算

---



ECO WAY

# 2017年度 第1四半期実績

(単位：億円)

	2016年度	2017年度	差異
	1Q	1Q	対前年
売上高	4,044	<b>4,350</b>	+ 305
営業損益	127	<b>303</b>	+ 176
経常損益	45	<b>282</b>	+ 236
(在庫評価影響を除く)	(110)	<b>(182)</b>	(+ 72)
特別損益	-	<b>67</b>	+ 67
親会社株主に帰属する 四半期純損益	△20	<b>250</b>	+ 270



ECOWAY

# 第1四半期 セグメント別売上高・経常損益

(単位：億円)

売上高	2016年度	2017年度	差異	経常損益	2016年度	2017年度	差異
	1Q	1Q	対前年		1Q	1Q	対前年
鉄鋼	1,442	<b>1,744</b>	+302	鉄鋼	△28	<b>130</b>	+159
溶接	206	<b>194</b>	△11	溶接	19	<b>11</b>	△7
アルミ・銅	851	<b>889</b>	+37	アルミ・銅	30	<b>61</b>	+30
機械	379	<b>303</b>	△76	機械	20	<b>2</b>	△18
エンジニアリング	243	<b>190</b>	△53	エンジニアリング	6	<b>3</b>	△3
建設機械	714	<b>875</b>	+160	建設機械	△40	<b>39</b>	+80
電力	172	<b>139</b>	△32	電力	38	<b>24</b>	△13
その他	148	<b>133</b>	△14	その他	7	<b>10</b>	+3
調整額	△114	△ <b>120</b>	△5	調整額	△9	△ <b>3</b>	+5
合計	4,044	<b>4,350</b>	+305	合計	45	<b>282</b>	+236



## 2. 2017年度業績見通し

---



ECOWAY

# 2017年度 業績見通し

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
売上高	16,958	9,300	9,400	18,700	<b>9,300</b>	<b>9,500</b>	<b>18,800</b>	+100
営業損益	97	350	400	750	<b>400</b>	<b>400</b>	<b>800</b>	+50
経常損益	△191	200	300	500	<b>300</b>	<b>250</b>	<b>550</b>	+50
（在庫評価影響を除く）	(△156)	(145)	(360)	(505)	<b>(250)</b>	<b>(300)</b>	<b>(550)</b>	(+45)
特別損益	81	-	-	-	<b>67</b>	-	<b>67</b>	+67
親会社株主に帰属する 当期純損益	△230	150	150	300	<b>250</b>	<b>100</b>	<b>350</b>	+50



ECO WAY

# 2017年度 セグメント別 売上高

(単位：億円)

売 上 高	2016年度	2017年度 (前回見通し)			2017年度 (今回見通し)			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
鉄 鋼	6,206	3,550	3,400	6,950	<b>3,600</b>	<b>3,500</b>	<b>7,100</b>	+150
溶 接	822	380	390	770	<b>400</b>	<b>400</b>	<b>800</b>	+30
アルミ・銅	3,233	1,750	1,700	3,450	<b>1,700</b>	<b>1,750</b>	<b>3,450</b>	±0
機 械	1,507	800	940	1,740	<b>820</b>	<b>960</b>	<b>1,780</b>	+40
エンジニアリング	1,211	540	800	1,340	<b>540</b>	<b>790</b>	<b>1,330</b>	△10
建 設 機 械	3,104	1,800	1,550	3,350	<b>1,800</b>	<b>1,550</b>	<b>3,350</b>	±0
電 力	706	320	390	710	<b>320</b>	<b>370</b>	<b>690</b>	△20
そ の 他	748	330	430	760	<b>300</b>	<b>410</b>	<b>710</b>	△50
調 整 額	△582	△170	△200	△370	<b>△180</b>	<b>△230</b>	<b>△410</b>	△40
合 計	16,958	9,300	9,400	18,700	<b>9,300</b>	<b>9,500</b>	<b>18,800</b>	+100



ECOWAY

# 2017年度 セグメント別 経常損益

(単位：億円)

経常損益	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
鉄鋼	△295	100	50	150	<b>110</b>	<b>40</b>	<b>150</b>	±0
溶接	68	20	30	50	<b>25</b>	<b>25</b>	<b>50</b>	±0
アルミ・銅	120	80	70	150	<b>75</b>	<b>65</b>	<b>140</b>	△10
機械	58	10	40	50	<b>10</b>	<b>40</b>	<b>50</b>	±0
エンジニアリング	28	△15	45	30	△ <b>10</b>	<b>50</b>	<b>40</b>	+10
建設機械	△313	65	25	90	<b>70</b>	<b>30</b>	<b>100</b>	+10
電力	130	0	30	30	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>40</b>	+10
その他	76	15	35	50	<b>15</b>	<b>45</b>	<b>60</b>	+10
調整額	△64	△75	△25	△100	△ <b>15</b>	△ <b>65</b>	△ <b>80</b>	+20
合計	△191	200	300	500	<b>300</b>	<b>250</b>	<b>550</b>	+50



ECOWAY

# 【鉄鋼】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見直し）			2017年度（今回見直し）			差異
	年度実績	上期	下期	年度①	上期	下期	年度②	対前回②-①
売上高	6,206	3,550	3,400	6,950	3,600	3,500	7,100	+150
経常損益	△295	100	50	150	110	40	150	±0
(内在庫評価影響)	(20)	(45)	(△65)	(△20)	(35)	(△55)	(△20)	(±0)

## 2017年度の状況

- 鋼材販売量、及びメタルスプレッドについては、概ね前回想定通り。
- 昨年秋に実施した加古川製鉄所の高炉改修影響が無くなることに加え、加古川製鉄所への上工程集約や追加収益改善策によるコストダウンについては計画通り進捗。



ECO WAY

# 【鉄鋼】収益力強化（経常損益推移）

(億円)

## 16年度⇒17年度:主なコスト変化要因

3高炉改修影響	+120
上工程集約効果	+65
追加収益改善策	+110
その他	△45
<b>合計</b>	<b>+250億円</b>

### メタルスプレッド 及び数量構成

生産・出荷	△195
原料価格	△120
為替影響	+10

## 2016年度

総コスト削減

+250

150

## 2015年度

△149

△305

在庫評価影響

+165

その他

+20

総コスト

△25

在庫評価影響

△40

## 2017年度

△295

+235

### メタルスプレッド 及び数量構成

生産・出荷	+675
原料価格	△400
為替影響	△40

## 15年度⇒16年度:主なコスト変化要因

3高炉改修影響	△120	△160
上工程集約影響	△40	
追加収益改善策	+85	<b>合計</b>
その他（子会社等）	+70	

## 製鉄所上工程の集約

(収益改善効果+150億円/年)

関連設備の立ち上げなど計画通り進捗中。本年11月に完遂予定。

2017年度 +65 (見込)

2018年度 +150 (計画)

※対2015年度比

## 追加収益改善策

(収益改善効果+300億円/年)

設備投資や生産現場レベルでのコスト削減、原料調達コスト削減により、順調に進捗。

2016年度 +85 (実績)

2017年度 +195 (見込)

+110

2020年度 +300 (計画)

※対2015年度比



ECOWAY

## 【鉄鋼】生産・販売状況

	2016年度 実績				2017年度	2017年度		
	1Q	上期	下期	年度	前回 年度見通し	1Q実績	年度見通し	
全国粗鋼 (万t)	2,621	5,255	5,261	10,516	/	2,620	/	
全国在庫水準 (万t)	556	561	542	--		586		5月末
薄板3品在庫水準 (万t)	403	397	380	--		408		5月末
国内自動車生産台数 (万台)	211	441	495	936		144		4-5月計

### <当社>

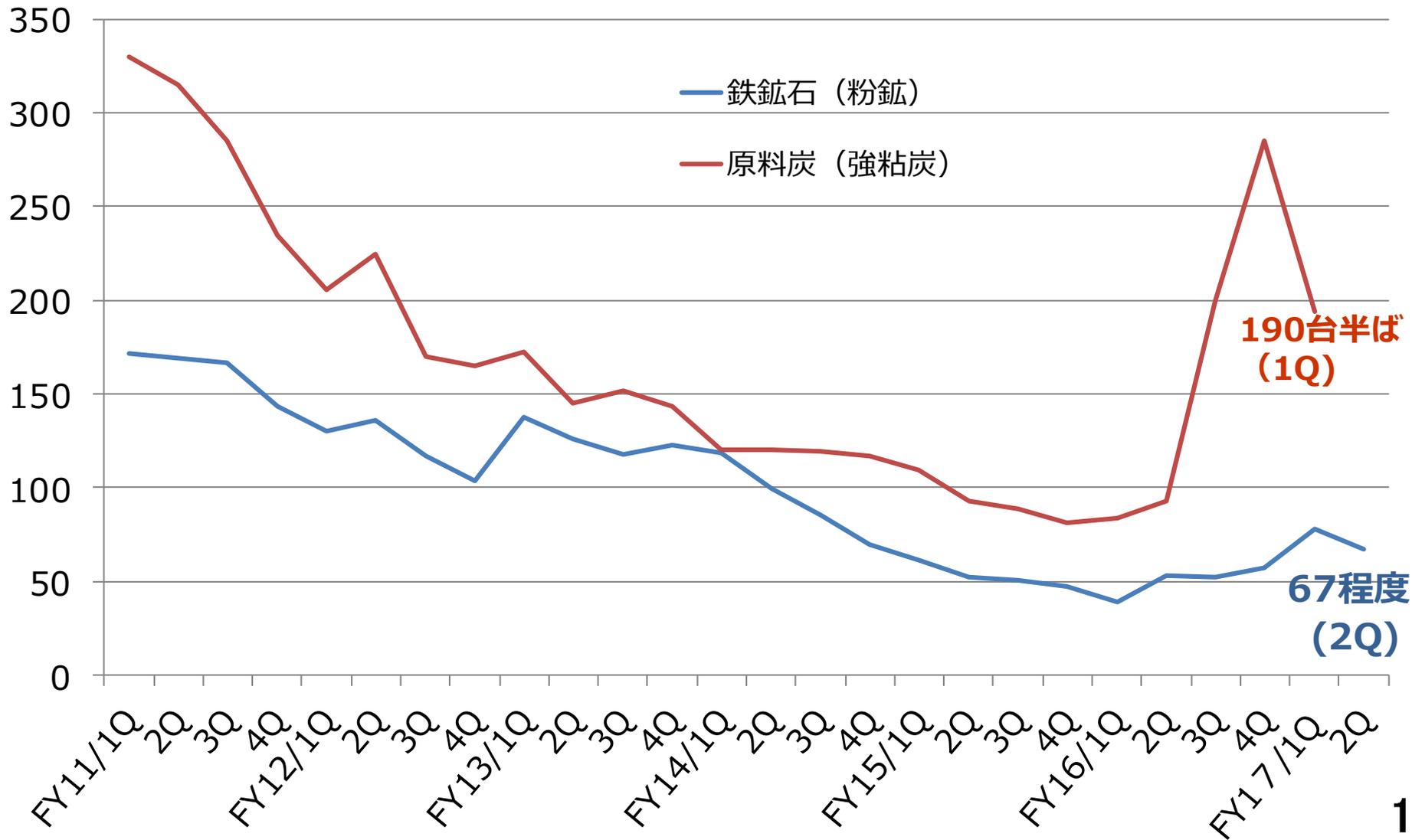
粗鋼生産 (万t)	194	384	337	721	760程度	194	760程度
鋼材販売量 (万t)	144	292	301	593	615程度	152	615程度
(内 国内)	(100)	(202)	(216)	(419)		(111)	
(内 海外)	(45)	(90)	(84)	(174)		(41)	
鋼材販売単価 (千円/t)	69.0	68.0	73.1	70.6		80.8	
鋼材輸出比率 (金額ベース)	29.9%	29.5%	27.7%	28.6%		27.1%	



ECO WAY

# 【鉄鋼】鉄鉱石と原料炭 価格推移

(単位：\$/トン)

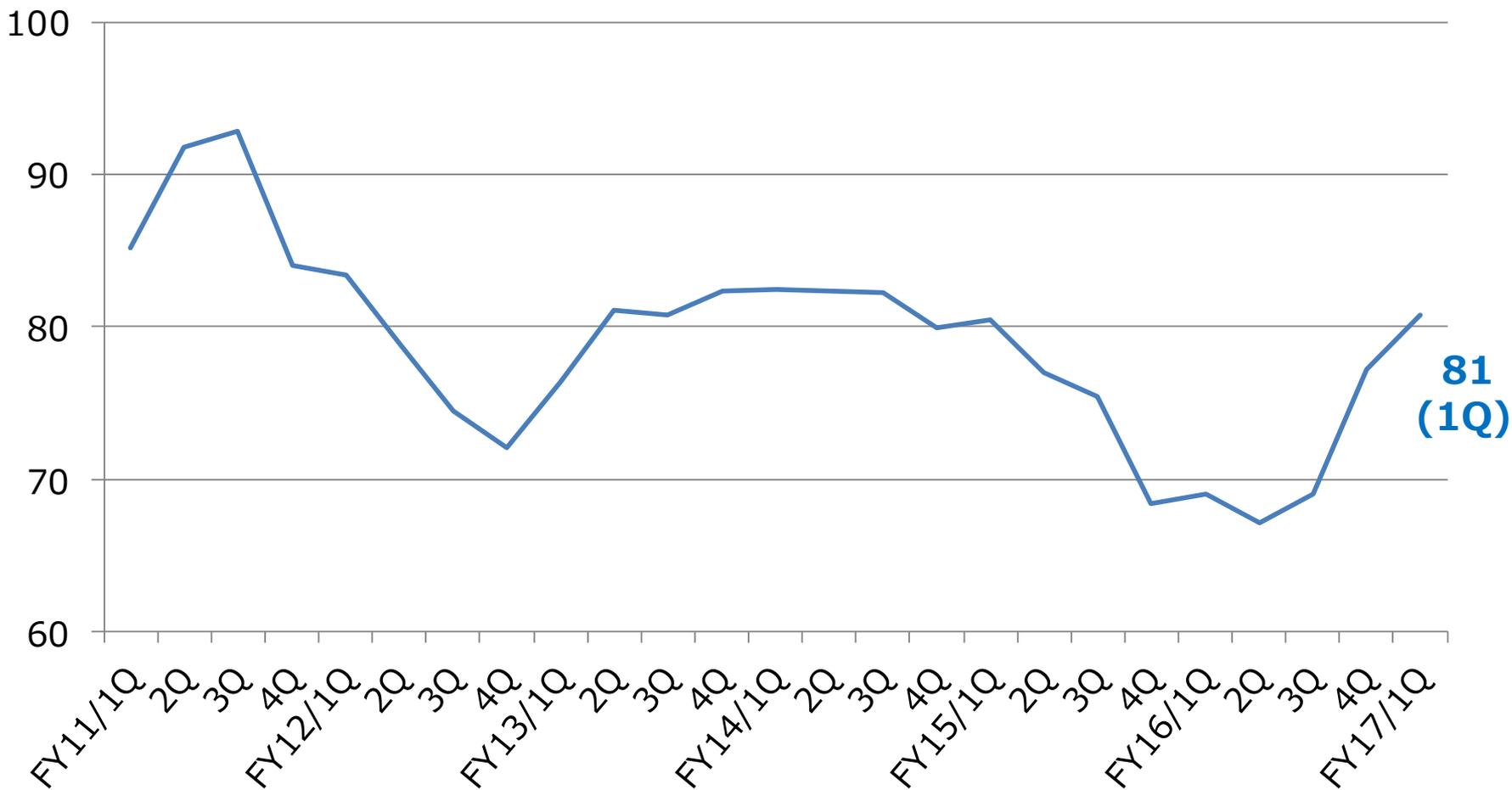




ECO WAY

## 【鉄鋼】鋼材単価の推移

(単位：千円/トン)





ECO WAY

## 【溶接】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	822	380	390	770	400	400	800	+30
経常損益	68	20	30	50	25	25	50	±0

### <当社の販売状況（溶接材料）>

(単位：千t)

	2016年度				2017年度	2017年度	
	1Q	上期	下期	年度	前回 年度見通し	1Q	年度見通し
国内	30	62	63	125	/	33	/
海外	45	89	83	172		40	
合計	75	151	146	297		73	
					290程度		

## 2017年度の状況

- 前回想定通り、溶接材料は海外を中心とする造船向けの需要が減少傾向であり、溶接システムも国内の建築鉄骨向けの需要が17年度中に一巡する見込み。



ECO WAY

## 【アルミ・銅】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②-①
売上高	3,233	1,750	1,700	3,450	<b>1,700</b>	<b>1,750</b>	<b>3,450</b>	±0
経常損益	120	80	70	150	<b>75</b>	<b>65</b>	<b>140</b>	△10
(内 在庫評価影響)	(△55)	(10)	(5)	(15)	<b>(15)</b>	<b>(5)</b>	<b>(20)</b>	(+5)

### <当社の販売状況>

(単位：千t)

	2016年度				2017年度	2017年度	
	1Q	上期	下期	年度	前回 年度見通し	1Q	年度見通し
アルミ圧延品 国内	80	155	136	291	<b>295程度</b>	<b>78</b>	<b>295程度</b>
輸出	17	31	36	68	<b>85程度</b>	<b>22</b>	<b>85程度</b>
銅圧延品	37	71	106	143	<b>143程度</b>	<b>37</b>	<b>143程度</b>

## 2017年度の状況

- アルミ圧延品、銅圧延品の販売数量は、概ね前回想定通り堅調に推移する見通し。
- 一部、北米のアルミ鍛造サスペンションの数量が想定ほど伸びなかったことなどから、減益を見込む。



ECO WAY

**【機械】**

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	1,507	800	940	1,740	<b>820</b>	<b>960</b>	<b>1,780</b>	+40
経常損益	58	10	40	50	<b>10</b>	<b>40</b>	<b>50</b>	±0
受注高	1,282	—	—	1,400程度	—	—	<b>1,400程度</b>	±0

**2017年度の状況**

- 依然続くエネルギー関連需要の停滞、競争激化により厳しい事業環境が継続する見通し。



ECO WAY

# 【エンジニアリング】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見直し）			2017年度（今回見直し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ② - ①
売上高	1,211	540	800	1,340	<b>540</b>	<b>790</b>	<b>1,330</b>	△10
経常損益	28	△15	45	30	<b>△10</b>	<b>50</b>	<b>40</b>	+10
受注高	1,742	—	—	1,000程度	—	—	<b>1,000程度</b>	±0

## 2017年度の状況

- 受注環境に大きな変化はない一方で、コストダウンなどにより増益を見込む。



ECO WAY

**【建設機械】**

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	3,104	1,800	1,550	3,350	<b>1,800</b>	<b>1,550</b>	<b>3,350</b>	±0
経常損益	△313	65	25	90	<b>70</b>	<b>30</b>	<b>100</b>	+10
(中国の引当金計上額)	(341)	(0)	(0)	(0)	<b>(0)</b>	<b>(0)</b>	<b>(0)</b>	(±0)

**2017年度の状況**

- 債権回収を優先させている中国の油圧ショベルで、前回想定に対し（通期で）10%程度の販売台数増と機種構成の改善を計画していることなどから、増益を見込む。
- 中国のショベル事業に係る債権回収は計画通り進捗しており、追加の引当金計上は引き続き想定していない。



ECO WAY

# 【電力】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見直し）			2017年度（今回見直し）			差異
	年度	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②－①
売上高	706	320	390	710	<b>320</b>	<b>370</b>	<b>690</b>	△20
経常損益	130	0	30	30	<b>20</b>	<b>20</b>	<b>40</b>	+10

## 2017年度の状況

- 燃料価格が想定を下回ることに伴う燃料費調整のズレなどから、増益を見込む。
- 新規プロジェクト（真岡、神戸3,4号機）も計画通りに進捗。



ECO WAY

**(余 白)**



# 3. 財務戦略と株主還元方針

---



ECO WAY

# 【財務戦略】

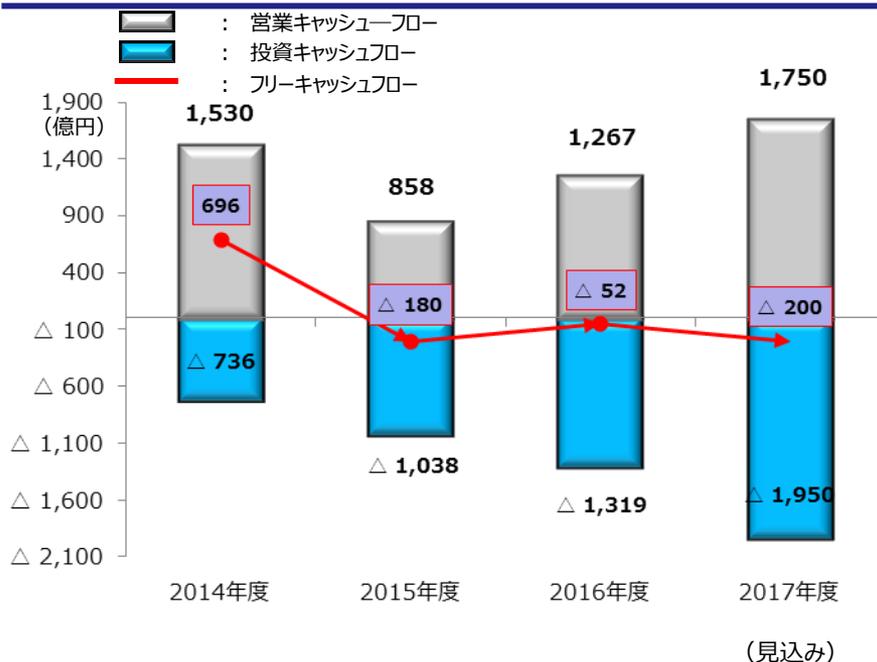
## 基本方針

- 素材系・機械系事業の成長に向けた大型戦略投資、及び事業基盤を支える定常投資は、原則として事業キャッシュフローにて賄う
- **D/Eレシオ 1倍以下を堅持**

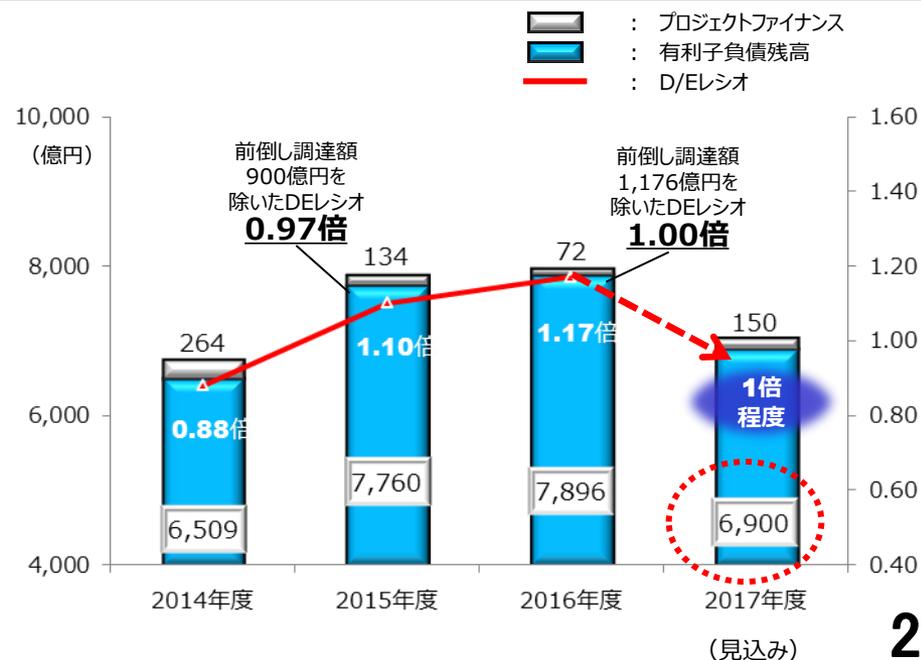
## キャッシュ対策

- 財務規律を維持しながら着実に成長投資を実施すべく、**1,000億円規模のキャッシュ対策**を検討・実施
  - ✓ 実施済みキャッシュ対策（合計 約330億円）
    - 【16年度】運転資金改善190億円、資産売却30億円等
    - 【17年度】資産売却110億円

### 《フリーキャッシュフロー》



### 《有利子負債残高・D/Eレシオ》





## 【株主還元方針】

### ■ 配当方針

- ✓ 継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、当社の財政状態、先行きの資金需要、各期の業績及び配当性向等を総合的に勘案して決定
- ✓ 当面、将来の成長のために必要な投資等を優先することで、収益力の向上を図り、グループ全体での企業価値ひいては株主共同の利益の向上に努める

### ■ 連結配当性向（目安）

- ✓ 当面、親会社株主に帰属する当期純利益の**15%～25%** とする

### ■ 配当実績

	2013年度			2014年度			2015年度			2016年度			2017年度		
	中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間	期末		中間 (予想)	期末	
配当金額 (¥/株)	-	4.0	4.0	2.0	2.0	4.0	2.0	-	2.0	-	-	-	10.0	未定	
配当性向	17.7%			16.8%			-			-			-		

※2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。



## 4. 参考情報

---



ECOWAY

# 【フリーキャッシュフロー】

(単位：億円)

	2016年度	2017年度（前回見通し）			2017年度（今回見通し）			差異
	実績	上期	下期	年度 ①	上期	下期	年度 ②	対前回 ②-①
営業キャッシュフロー	1,267	1,250	500	1,750	<b>1,400</b>	<b>350</b>	<b>1,750</b>	±0
投資キャッシュフロー	△1,319	△1,400	△650	△2,050	<b>△1,150</b>	<b>△800</b>	<b>△1,950</b>	+100
プロジェクトファイナンス除く フリーキャッシュフロー	△52	△150	△150	△300	<b>250</b>	<b>△450</b>	<b>△200</b>	+100
プロジェクトファイナンス含む フリーキャッシュフロー	39	△150	△200	△350	<b>250</b>	<b>△500</b>	<b>△250</b>	+100
プロジェクトファイナンス除く 現預金残高	※1 1,970	1,550	650		<b>1,900</b>	<b>650</b>		±0

※1：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む



ECO WAY

## 【設備投資の状況】

(単位：億円)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 見通し
設備投資<計上>	1,035	1,099	<b>1,602</b>	<b>1,350</b>
対減価償却費	115%	116%	<b>167%</b>	<b>129%</b>

設備投資<支払い>	953	991	<b>1,389</b>	<b>1,500</b>
対減価償却費	106%	105%	<b>144%</b>	<b>143%</b>

減 価 償 却 費	898	948	<b>962</b>	<b>1,050</b>
-----------	-----	-----	------------	--------------



ECOWAY

## 【財務指標】

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 見通し
R O S ※1	5.4%	1.6%	△1.1%	2.9%
1株あたり当期純利益 ※2	238.19円	△59.34円	△63.54円	96.61円
D / E レシオ ※3	0.88倍	※4 1.10倍	※5 1.17倍	1倍程度
R O A ※6	4.4%	1.3%	△0.8%	2.4%
R O E ※7	12.0%	△2.9%	△3.4%	5.1%

※1：売上高経常利益率

※2：当社は2016年10月1日を効力発生日として、10株を1株に併合する株式併合を実施。  
2015年度以前も株式併合を前提として算定

※3：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本（15年度は株主資本）

※4：2016年度分借入金の前倒し調達（900億円）含む  
前倒し調達除く2015年度D/Eレシオ：0.97倍

※5：2017年度分借入金の前倒し調達（1,176億円）含む  
前倒し調達除く2016年度D/Eレシオ：1.00倍

※6：経常損益/総資産

※7：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本



ECO WAY

# 全社 差異内訳 (2016年度⇒2017年度)

(単位：億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	123	△314	△191	300	250	550

**+ 741**

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ <b>700</b>	原料価格	△ <b>400</b>
総コスト削減	+ <b>225</b>	鉄鋼在庫評価影響	△ <b>40</b>
アルミ・銅在庫評価影響	+ <b>75</b>	鉄鋼為替影響	△ <b>40</b>
連結子会社・持分法	+ <b>260</b>	その他	△ <b>39</b>
合計	+ <b>1,260</b>	合計	△ <b>519</b>



ECOWAY

# 鉄鋼 差異内訳 (2016年度⇒2017年度)

(単位：億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△98	△197	△295	110	40	150

+ 445

増益要因		減益要因	
生産・出荷	+ <b>675</b>	原料価格	△ <b>400</b>
総コスト削減	+ <b>250</b>	在庫評価影響	△ <b>40</b>
		為替影響	△ <b>40</b>
		その他	△ <b>0</b>
合計	+ <b>925</b>	合計	△ <b>480</b>



ECO WAY

# 全社 差異内訳 (2017年度 前回見通し⇒今回見通し)

(単位：億円)

	2017年度 (前回見通し)			2017年度 (今回見通し)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	200	300	500	300	250	550

+ 50

増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	<b>15</b>	原料価格	△	<b>10</b>
総コスト削減	+	<b>25</b>	その他	△	<b>5</b>
鉄鋼在庫評価影響	±	<b>0</b>			
Alミ・銅在庫評価影響	+	<b>5</b>			
連結子会社・持分法	+	<b>15</b>			
鉄鋼為替影響	+	<b>5</b>			
合計	+	<b>65</b>	合計	△	<b>15</b>



ECO WAY

# 鉄鋼 差異内訳 (2017年度 前回見通し ⇒ 今回見通し)

(単位：億円)

	2017年度 (前回見通し)			2017年度 (今回見通し)		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	100	50	150	110	40	150

± 0

増益要因			減益要因		
生産・出荷	+	15	原料価格	△	10
総コスト削減	+	20	その他	△	30
在庫評価影響	±	0			
為替影響	+	5			
合計	+	40	合計	△	40



ECO WAY

# 全社 差異内訳 (2017年度 上期⇒ 下期)

(単位：億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	123	△314	△191	300	250	550



△ 50

増益要因			減益要因		
原料価格	+	<b>110</b>	生産・出荷	△	<b>210</b>
総コスト削減	+	<b>60</b>	鉄鋼在庫評価影響	△	<b>90</b>
連結子会社・持分法	+	<b>70</b>	アルミ・銅在庫評価影響	△	<b>10</b>
その他	+	<b>25</b>	鉄鋼為替影響	△	<b>5</b>
合計	+	<b>265</b>	合計	△	<b>315</b>



ECO WAY

# 鉄鋼 差異内訳 (2017年度 上期⇒ 下期)

(単位：億円)

	2016年度			2017年度		
	上期	下期	年度	上期	下期	年度
経常損益	△98	△197	△295	110	40	150

△ 70

増益要因		減益要因	
原料価格	+ 110	生産・出荷	△ 200
総コスト削減	+ 65	在庫評価影響	△ 90
その他	+ 50	為替影響	△ 5
合計	+ 225	合計	△ 295



ECO WAY

**(余 白)**



ECO WAY

## 【3本柱の事業成長戦略】中期計画の進捗状況

### 素材

#### I 輸送機軽量化への取組み

自動車軽量化戦略を加速（2017年5月説明会資料をご参照下さい）

[http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor\\_meeting/2017/files/170526.pdf](http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2017/files/170526.pdf)

#### II 鉄鋼事業の収益力強化

加古川製鉄所への上工程設備集約に向け予定通り進捗 P.37～39

追加収益改善策を順調に実行中 P.11

### 機械

#### I エネルギー・インフラ分野への取組み

機械事業拡大に向け順調に進捗 P.40

#### II 建設機械事業の収益力強化

・中国ショベル事業再構築を推進（2017年2月説明会資料をご参照下さい）

[http://www.kobelco.co.jp/ir/library/fnci\\_results/2016/\\_icsFiles/afieldfile/2017/02/02/170202.pdf](http://www.kobelco.co.jp/ir/library/fnci_results/2016/_icsFiles/afieldfile/2017/02/02/170202.pdf)

### 電力

#### 電力供給事業の安定収益化への取組み

既存・新規 全プロジェクトが順調に進捗（2017年1月説明会資料をご参照下さい）

[http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor\\_meeting/2016/files/170111.pdf](http://www.kobelco.co.jp/ir/library/investor_meeting/2016/files/170111.pdf)



ECOWAY

## 【鉄鋼】収益力強化策 加古川製鉄所への上工程集約 概要

- 国内外の中長期的な需要動向を踏まえ、製鉄・製鋼コストで優位性のある加古川製鉄所へ、神戸製鉄所の上工程を集約する。(2017年11月完遂予定)

### 鋼材事業の構造的な課題

#### 神戸製鉄所

- ✓ 規模が加古川製鉄所と比較して小さい
- ✓ コークス炉、焼結工場といった事前処理設備を有していない
- ✓ 主原料を加古川製鉄所からの横持ちや外部購入に依存している

#### 加古川製鉄所

- ✓ 需要減に伴い、粗鋼生産能力に余力がある

### 上工程集約の概要

#### 神戸製鉄所

- ✓ 上工程設備を休止  
(高炉、溶鉄・溶鋼処理設備、連続鋳造設備、分塊設備など)
- ✓ 下工程設備はこれまで通り操業を継続  
(線材圧延機、棒鋼圧延機など)

#### 加古川製鉄所

- ✓ 上工程の稼働率を上げ、神戸製鉄所上工程の削減能力分をカバー
- ✓ 神戸製鉄所向け半製品の増産対応  
(ブルーム連続鋳造設備、溶鋼処理設備を増設、分塊圧延機  
の能力増強、半製品輸送対応等)

➡ 設備投資額 655億円程度



ECO WAY

## 【鉄鋼】収益力強化策 加古川製鉄所への上工程集約のねらい

- ✓ 加古川製鉄所への集約によるコスト競争力の強化
  - 溶銑コスト低減（出銑比の向上、コークスコスト低減等）
  - 製鋼コスト低減（製鋼原単位低減等）
  - その他（エネルギー効率の向上、固定費低減等）



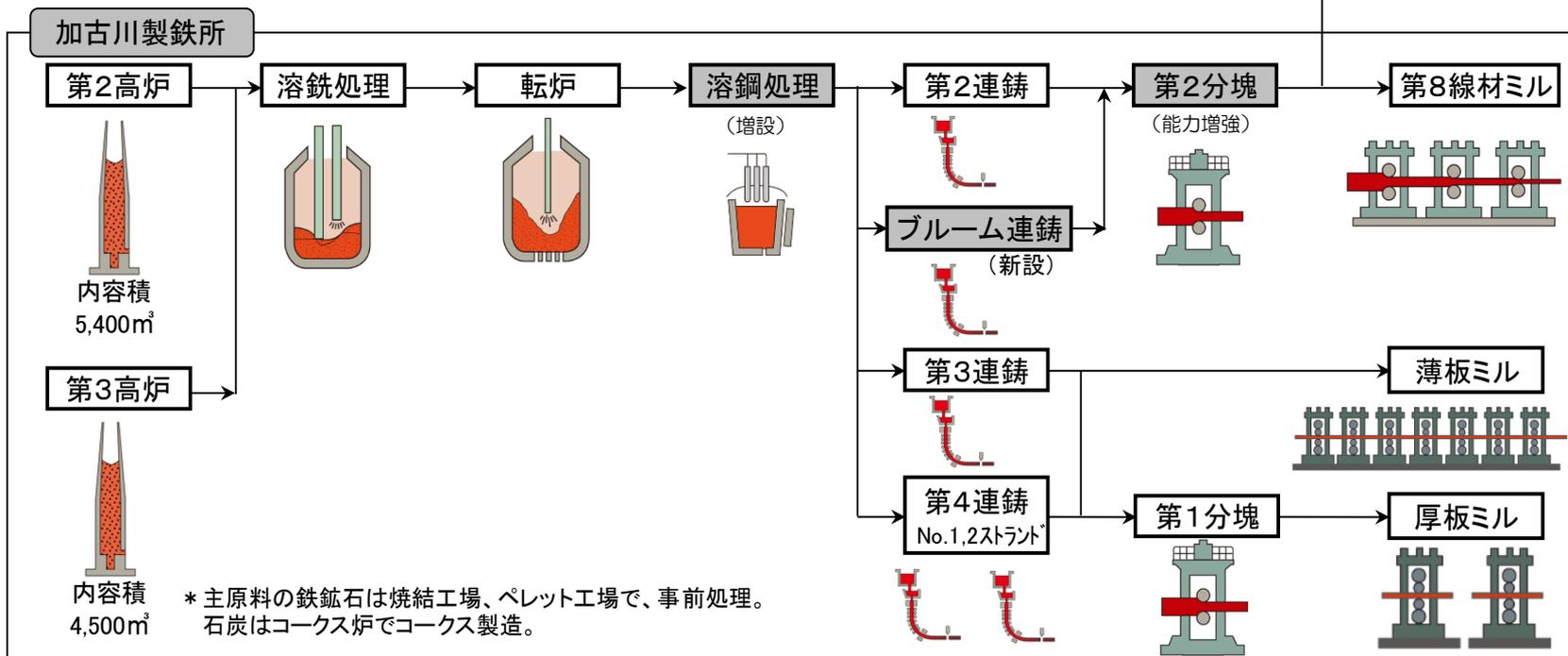
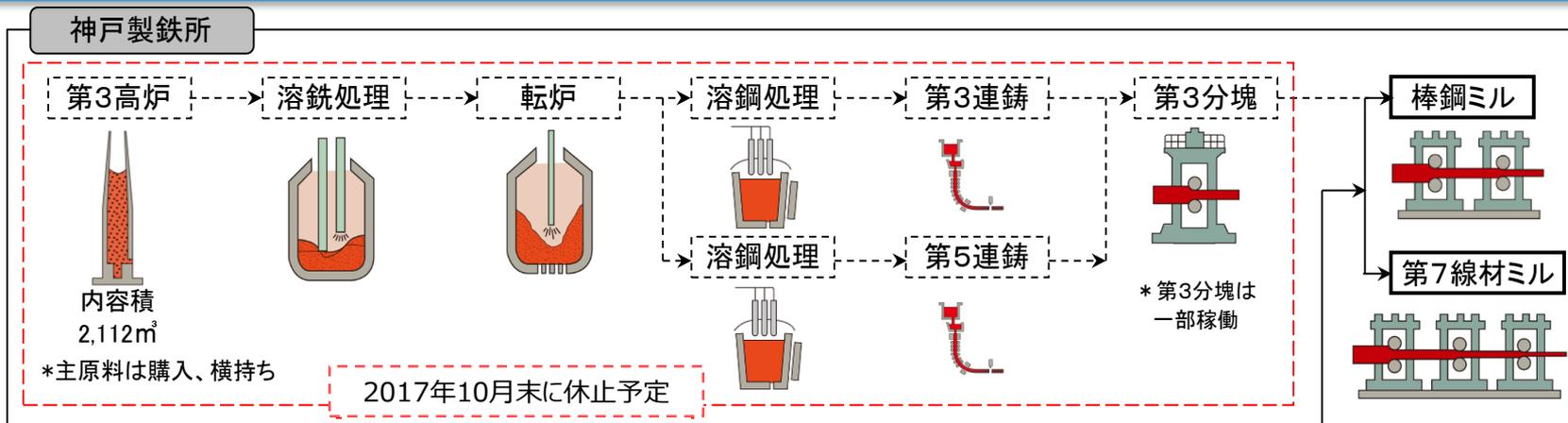
**上工程集約・設備導入効果額:150億円／年以上**

- ✓ 最新鋭の連続鋳造設備や溶鋼処理設備導入による品質競争力の向上と納期対応力の強化
- ✓ トータルコスト低減による拡販・利益向上
- ✓ 鋼材品種構成の高度化による輸送機分野での成長  
（薄板超ハイテン、線材特殊鋼など）



ECO WAY

# 【鉄鋼】収益力強化策 上工程集約 生産プロセスフローの概要





ECO WAY

## 【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

### 米国定置式水素ステーション向け 「HyACmini-A」販売開始

2017年2月  
米国定置式水素ステーション向けAll in oneコンパクトパッケージ  
「HyACmini-A」の販売を開始

- ◆ 国内向け「HyACmini」設置面積比10%減
- ◆ (株) タツノ製ディスペンサーとのセット販売により、水素の圧縮からFCVへの充填まで可能



**顧客の手配手間、現地調整作業を軽減**

### スウェーデン Quintus社を買収

2017年4月  
IP装置市場世界トップメーカー Quintus Technologies ABを買収  
航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能  
製品に幅広く適用される等方圧加圧装置（IP装置）のトップメーカー。  
航空宇宙分野を中心に、欧州・米国で圧倒的なプレゼンスを発揮。

**産業機械事業の高収益化に向け  
安定収益基盤となるメニューを強化**

### 新領域：大型機市場参入向け 世界最大級試運転設備完成

2017年4月  
非汎用圧縮機用 大型試運転設備完成  
世界最大級となる40MW可変速モータを使用した試運転が可能となり、大型ターボ  
圧縮機市場への参入条件が整う。



**特に、当社優位性のある  
アジア市場の取り込みに注力**



ECO WAY

## 【素材】 輸送機軽量化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
自動車	特殊鋼・普通鋼線材圧延・販売合併会社 (Kobelco Millcon Steel Co., LTD)	タイ	海外初の線材圧延拠点 拡大が見込まれる東南アジアの自動車生産需要を捕捉	2015年9月 普通鋼製造開始 2017年5月 特殊鋼製造開始予定
	CHワイヤー（鋼線）の製造・販売合併会社 (Kobelco CH Wire Mexicana, S.A. de C.V.)	メキシコ	現地自動車部品メーカーへ品質に優れた製品を迅速に納入	2016年1月 稼働開始
	自動車用冷延ハイツ製造・販売会社 (鞍鋼神鋼冷延高張力自動車鋼板有限公司)	中国	中国での環境対応への取り組み強化 日・米・欧・中での「薄板ハイツのグローバル供給体制」整備	2016年2月 稼働開始
	自動車パネル用アルミ板材製造・販売会社 (神鋼汽車鋁材(天津)有限公司)	中国	日系アルミ圧延メーカー初の中国におけるパネル材生産拠点	2016年4月 稼働開始
	自動車向けアルミ押出材製造・販売会社 (Kobelco Aluminum Products & Extrusions Inc.)	米国	米国での燃費規制への対応強化 日・米両極でのアルミ押出・加工品の供給体制確立	2016年8月 建設開始 2017年後半 稼働予定
	高生産性ホットスタンプ用鋼板の量産	-	プレス生産性に優れたホットスタンプ用冷延鋼板を開発、トヨタ自動車(株)プリウス向けのボディ骨格部品を受注、量産。	2016年 量産開始
	自動車ソリューションセンター新設	-	技術開発本部内に「自動車ソリューションセンター」を新設。全社自動車プロジェクト担当役員を新たに配置し、意思決定の迅速化と当社独自のソリューション提案力の強化を図る。	2017年4月 新設
	自動車サスペンション用アルミ鍛造工場生産設備の増強 (Kobelco Aluminum Automotive Products, LLC)	米国	北米のアルミ鍛造サスペンションの更なる需要拡大に対応 日系自動車メーカーのみならず、米国自動車メーカー車種の採用拡大を見込む	2018年秋 順次稼働開始
	Novelisとの韓国でのアルミ合併会社の設立 (Ulsan Aluminum Ltd.)	韓国	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 アジアにおける母材の安定的な生産・供給能力を確保	2017年9月 設立予定
	真岡製造所におけるアルミパネル材製造設備の増強	日本	日本、中国を含むアジアでのアルミパネル材の需要拡大に対応 高品質のアルミパネル材を安定的に供給する体制を構築	2017年度中 建設着工 2020年1月 稼働開始予定
航空機	エアバス向けチタン大型鍛造品の量産供給開始	-	日本で初めて着陸装置用チタン大型鍛造品の開発・量産に成功	2016年7月 量産供給開始
	GE社向け大型ジェットエンジン用チタン合金鍛造品の認定取得 及び量産供給開始	-	米GE社製造の民間航空機向け大型エンジンに使用されるチタン合金鍛造品 (シャフト) サプライヤーとして認定を取得、供給を開始	2016年8月 認定取得 量産供給開始
船舶	船舶用鋳鍛鋼部品における新技術、製品の認証・開発	-	船舶向けに高強度な軽量部材を提供 船舶の燃費改善に貢献	2016年10月 認証・開発
	「船用バイナリー発電システム」海上試験完了	日本	船舶用エンジンに付随する過給機からの排熱を熱源として発電する船用バイナリー発電システムを旭海運(株)、三浦工業(株)と共同開発。船舶用としては世界初、船舶にける排熱を利用した発電量としては最大規模。	2014年4月 開発開始 2015年9月 陸上試験合格 2016年12月 海上試験合格 2017年3月 日本海事協会認証取得 2019年度 販売開始



ECO WAY

## 【機械】 エネルギー・インフラ分野への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
圧縮機	新型オイルフリー式汎用空気圧縮機の販売開始	—	世界最高クラスのエネルギー効率と低騒音を実現	2016年10月 販売開始
	LNG船向け非汎用スクリュ式圧縮機の受注	—	船用二元燃料焚きエンジン向けに世界初の「スクリュ式」圧縮機を受注	2016年10月 受注 2017年8月 納入予定
	米国向け水素ステーション用All in oneコンパクトパッケージ「HyAC mini-A」の開発・販売開始	米国	米国の定置式水素ステーション向けに高圧水素圧縮機、冷凍機、蓄圧器、ディスベンサーをセットにした「HyACmini-A」の販売を開始。海外水素ステーション向けに水素圧縮機等を販売するのは日本企業では初。	2017年2月 販売開始
	北海道洞爺湖温泉向けバイナリー発電システムの納入	日本	洞爺湖町地熱利用発電設備導入事業向けに、高効率・小型バイナリー発電システム一式を納入	2017年3月 納入
	非汎用圧縮機用 大型試運転設備の完成	日本	世界最大級となる40MW可変速モータを使用した試運転が可能となり、大型ターボ圧縮機市場への参入条件が整う。特に、当社優位性のあるアジア市場への取り込みに注力。	2017年4月 設備完成
	非汎用圧縮機事業 フィリピン新会社設立 (Kobelco Machinery Philippines Inc.)	フィリピン	指導員派遣機能とエンジニアリング機能を統合した新会社を設立。非圧縮機事業のグローバル展開を加速させるとともに、「SVの増強」と「エンジニアリング業務の最大効率化」を図る。	2017年2月 設立 2017年4月 営業開始
産業機械	等方圧加圧装置世界トップメーカー Quintus Technologies ABの買収	スウェーデン	航空機部品や発電用タービンブレード、半導体関連素材など高機能製品に幅広く適用される等方圧加圧装置 (IP装置) のトップメーカーであるQuintus社を買収。産業機械事業の高収益化に向け、IP装置メニューを強化。	2017年4月 買収
建設機械	油圧ショベル新工場 (Kobelco Construction Machinery U.S.A. Inc.)	米国	北米ユーザー向けの生産リードタイム圧縮、市場ニーズへの対応力強化	2016年3月 操業開始
	国内向け超大型クローラークレーンの開発・販売開始 (最大つり上げ能力1,250トン)	—	超大型クローラークレーン需要の高まりに対応した国産最大級クローラークレーンの供給	2016年5月 販売開始
エンジニアリング	放射性廃棄物処理に関する合併会社設立 (コベルコ スタズビック株式会社)	日本	国内原子力発電所の廃炉等の課題に対して安全な放射性廃棄物処理技術・プロセスを提供	2016年4月 合併契約締結
	MIDREX直接還元鉄プラントの新規受注	アルジェリア	世界最大クラスとなる年産能力250万トン 同国産業の発展に貢献	2016年6月 受注 2018年11月 稼働予定
	エネルギー回収型ごみ処理施設運営事業を受注	日本	当社初の流動床式ガス化燃焼炉採用 次世代型焼却炉で施設のコンパクト化、発電量の最大化、環境負荷軽減に貢献	2016年6月 受注 2016年～2019年 設備建設 2019年～2039年 設備運営
	広域ごみ処理施設整備・運営事業を受注	日本	幅広いごみ質に対応し、安全・安定燃焼を実現するストーカ式燃焼炉。低空気比燃焼、高効率発電により、環境負荷軽減に貢献。	2016年12月 受注 2016年～2022年 設備建設 2022年～2042年 設備運営



ECO WAY

## 【電力】 電力供給事業の安定収益化への取組み

分野	案件	地域	概要	時期
電力	神戸発電所 1,2号機 (株コベルコパワー-神戸)	日本	2002年稼働の微粉炭火力超臨界圧発電設備。現行契約満了にあたり、契約を延長。 発電規模：140万kW（70万kW×2）	2002年4月 1号機操業開始 2004年4月 2号機操業開始 【延長契約期間】 1号機：2017年4月～ 2号機：2019年4月～
	真岡発電所 1,2号機 (株コベルコパワー-真岡)	日本	国内初の本格的な内陸型発電所として国内最高レベルの効率での発電、都市ガス燃料のガスタービン・コンバインドサイクル設備。 発電規模：124.8万kW（62.4万kW×2基）	2016年6月 建設開始 2019年後半 1号機稼働予定 2020年前半 2号機稼働予定
	神戸発電所 3,4号機（仮称）	日本	最新鋭の発電技術である微粉炭火力超々臨界圧発電設備での発電 発電規模：130万kW（65万kW×2基）	2021年度 3号機稼働予定 2022年度 4号機稼働予定



# KOBELCOの3つの約束

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します



## 将来見通しに関する注意事項

- **本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまう可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。**
- **上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。**
  - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
  - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
  - 為替相場の変動
  - 原材料のアベイラビリティや市況
  - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
  - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化